

実践事例

- 1 立川市立けやき台小学校
- 2 小平市立小平第六小学校

推進校は、飼育動物が死亡した際に、児童に生命の尊さを伝える取組を実施しています。また、学校担当獣医師から、遺体の検案、埋葬場所の準備、埋葬の処理などについて支援を受けています。



1 立川市立けやき台小学校

実施期間：平成 26 年 9 月 26 日～10 月 31 日

実施対象：飼育委員会の児童（25 名）及び全校児童

動物：ウサギ（1 羽）



お別れ会で献花をする飼育委員

【実践の概要】

平成 26 年 9 月 26 日に、ウサギのミミが高齢化と気候の変化によるストレスなどの原因で、死去した。

全校朝会において、飼育担当教員から全校児童に、ミミの死を報告し、黙とうを行った。併せて飼育担当教員が生命尊重の講話を行った。

また、飼育担当教員、管理職、学校担当獣医師の立会いの下、「お別れの会」を行い、飼育委員会の児童一人ひとりが献花を行った。

その際、学校担当獣医師が児童に対し、「生き物との出会いと別れ」に関する講話を行った。その後、ミミは動物霊園に埋葬された。

児童から寄せられた「天国のミミちゃんへのメッセージ」を校内に掲示し、ミミへの哀悼の意を表した。

【学校担当獣医師との連携】

学校担当獣医師には、飼育動物の容体が悪化したときの対応、死亡した際の遺体の浄拭や動物霊園での火葬・埋葬の手続き、「お別れの会」での児童への講話などの支援を受けた。

【児童の反応】

学校担当獣医師から多くの支援を受けながら取組を行ったことは、児童の生命尊重などの情操の涵養につながった。児童からは、次のようなメッセージが寄せられた。

- 長い間ありがとう。ぼくは、ミミのことをわすれません。
- ミミちゃん大好きだよ。天国へ行っちゃうのはさびしいね。天国で楽しくくらしてね。元気でね。
- 2 年間ありがとう。シロフクと過ごす時間は少なかったね。みんなでミミを、見守っているよ。



2 小平市立小平第六小学校

実施期間：平成 26 年 11 月 9 日（日）～10 日（月）

実施対象：全校児童、飼育委員会の児童

動物：ウサギ（1 羽）

【実践の概要】

平成 26 年 11 月 9 日、3 歳 11 か月のウサギのグレが死去した。

翌日、児童朝会において校長より全校児童にグレの死を告げた。その後、飼育担当教員からグレに関わる 4 年間の話と、グレが亡くなる直前の様子を全校児童に伝えた。

同日の中休みに、飼育委員会の児童（17 名）一人ひとりが、別れの言葉や楽しかった思い出を手紙に書き、グレと別れた。

学校担当獣医師は、花束を抱えてグレを引き取りに来校し、埋葬を行った。花束は、現在もグレの住んでいた飼育舎の傍に置かれており、飼育委員は花の水を取り替えたり、餌を入れたりしている。



グレの死後 数か月経過した飼育舎の様子

【学校担当獣医師との連携】

学校担当獣医師は、来校するたびに飼育動物の様子を診ていた。飼育動物の調子が悪いときは、動物病院まで連れて行き診察してくれた。また、学校担当獣医師から助言を受けることによって、調子が悪い動物の飼育の仕方に気を付けることができた。

【児童の反応】

- 児童朝会でグレの死を聞いた児童の中には、目に涙を浮かべる児童の姿があった。「グレと一緒に埋葬してほしい。」と、多くの児童からグレに手紙が届いた。
- お別れ会に参加した飼育委員の児童は、グレに声をかけたり、体をやさしくなでたりしていた。
- 身近に「死」を意識したり経験したりすることが少ない児童が多いためか、グレの死は児童の心に深く残ったようである。グレが死亡して数か月経った現在も、グレが住んでいた飼育舎に来て声をかけたり、手紙を置いたりする児童が後を絶たない。

